



# 「エミトラ」のご紹介

～サプライチェーン輸送の脱炭素プラットフォーム～

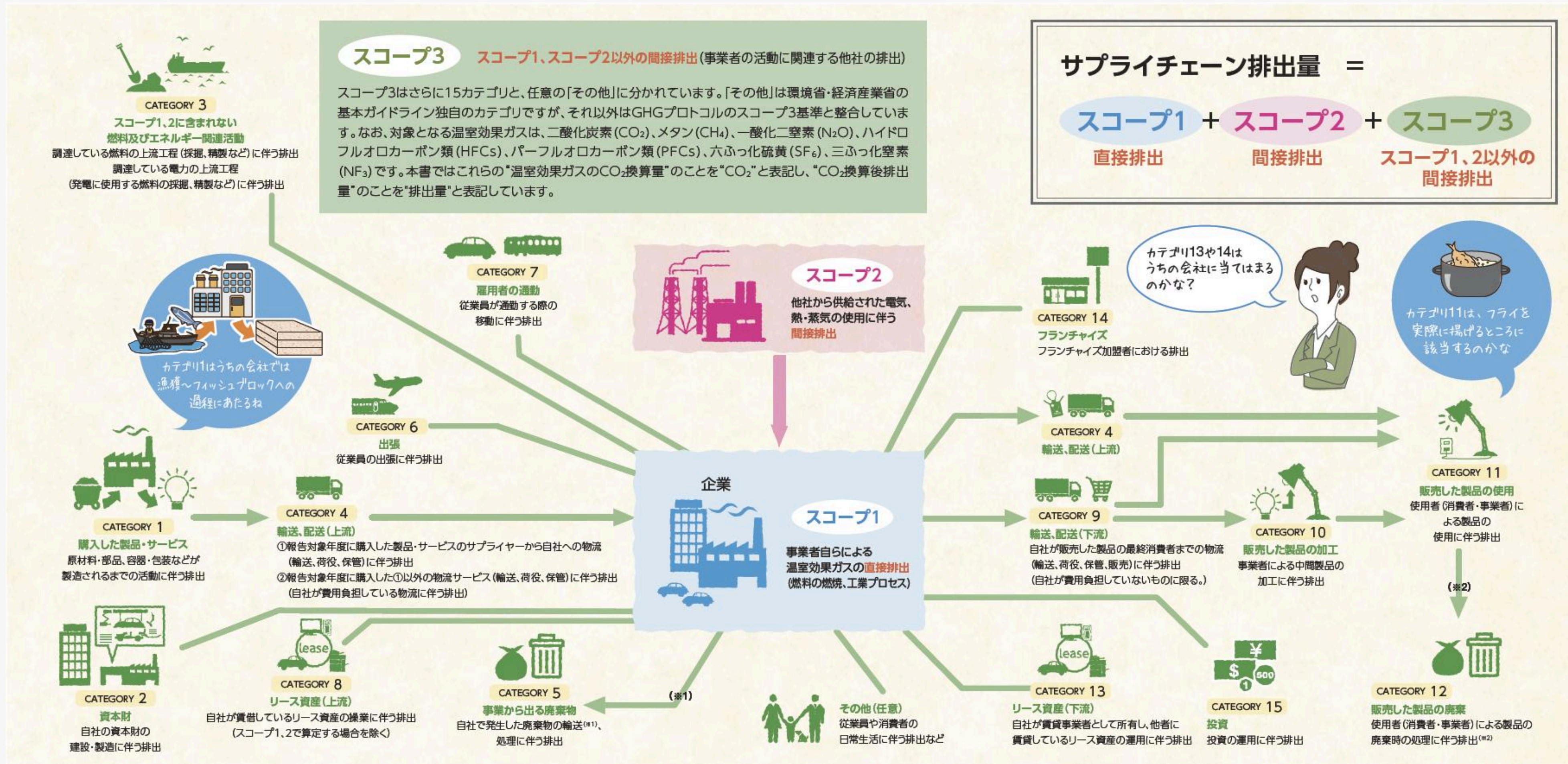
株式会社Mobirta



# PROBLEM

# サプライチェーン全体のCO2排出量把握・削減が必要

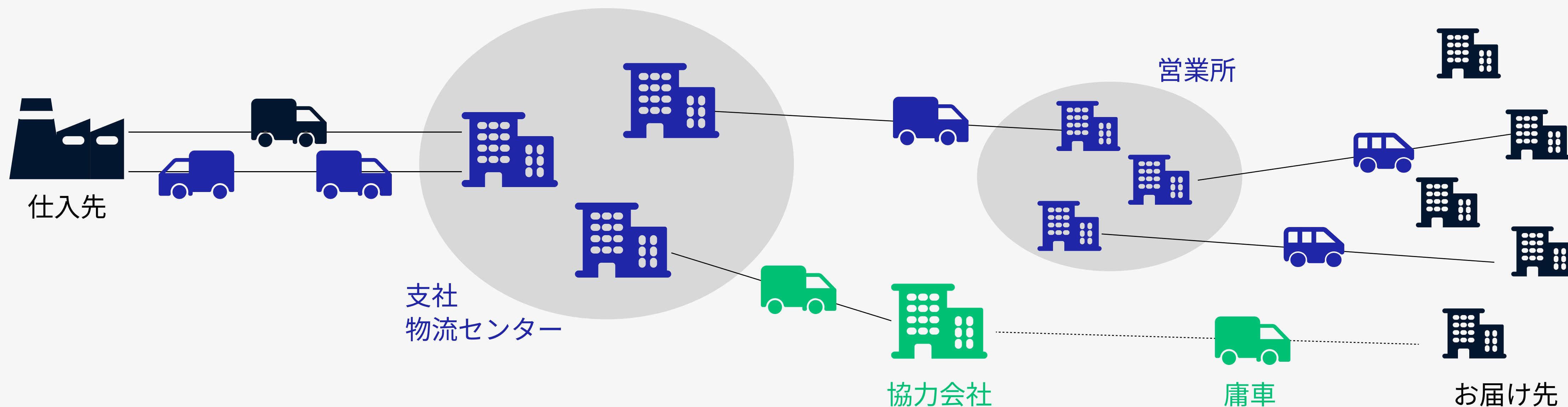
2027年から、企業活動以外の間接的な排出についても開示義務が発生する



## PROBLEM

# 自動車輸送に伴うCO2排出量把握

ルートが多岐にわたる。全国各地に支社・営業所・お届け先が点在。



## PROBLEM

# 物流で発生するCO2算出方法

一次データ（燃料使用量、燃費）は荷主や輸送単位ごとに分けられないため、二次データから便宜的に計算する手法が一般的（荷物の重さ×発着点の距離）

### 基本

国内における輸送については、算定・報告・公表制度における特定荷主の算定方法を適用して算定する。

【燃料法】 $\Sigma \{ (\text{燃料使用量}) \times (\text{排出原単位}) \}$

【燃費法】 $\Sigma \{ (\text{輸送距離}) / (\text{燃費}) \times (\text{排出原単位}) \}$

【トンキロ法】※ただし、トンキロ法では帰り便の空輸送に係る排出量は算定できない  
 <トラック>  $\Sigma \{ (\text{輸送トンキロ}) \times (\text{トンキロ法燃料使用原単位}) \times (\text{排出原単位}) \}$   
 <鉄道、船舶、航空>  $\Sigma (\text{輸送トンキロ}) \times (\text{トンキロ法輸送機関別排出原単位})$

※青字部: サプライヤーから収集するデータを使用する。

※赤字部: 「原単位データベース」などから引用・適用される二次データを使用する。

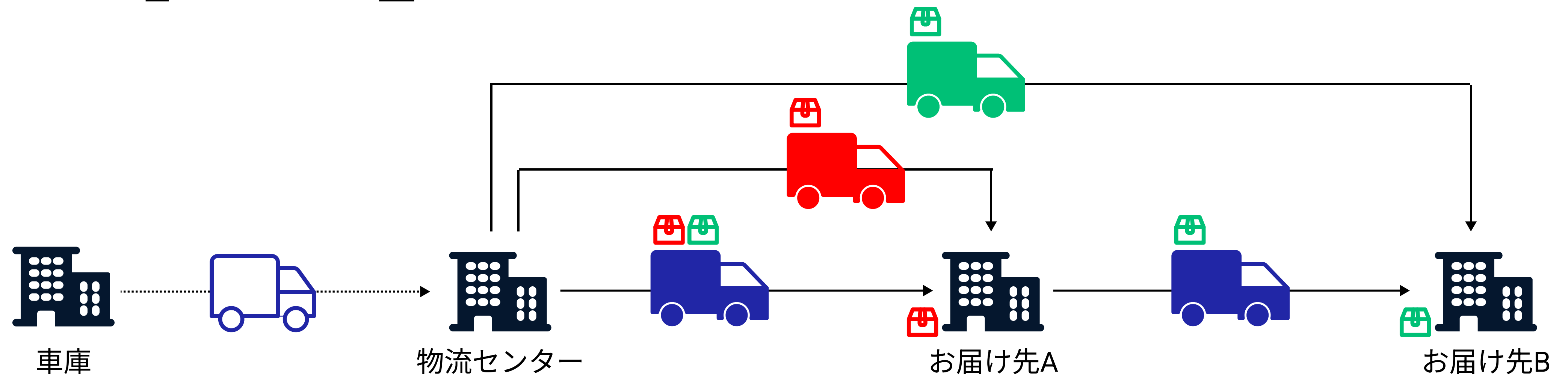
## PROBLEM

# 発生する問題

二次データでは、官民一体となって取り組んでいる物流効率化の取り組みによる削減効果が反映されない  
一次データから正確に計算できる仕組みが必要

(※) 削減施策例：共同配送、積載率の向上、待機時間削減、エコドライブ推進、…

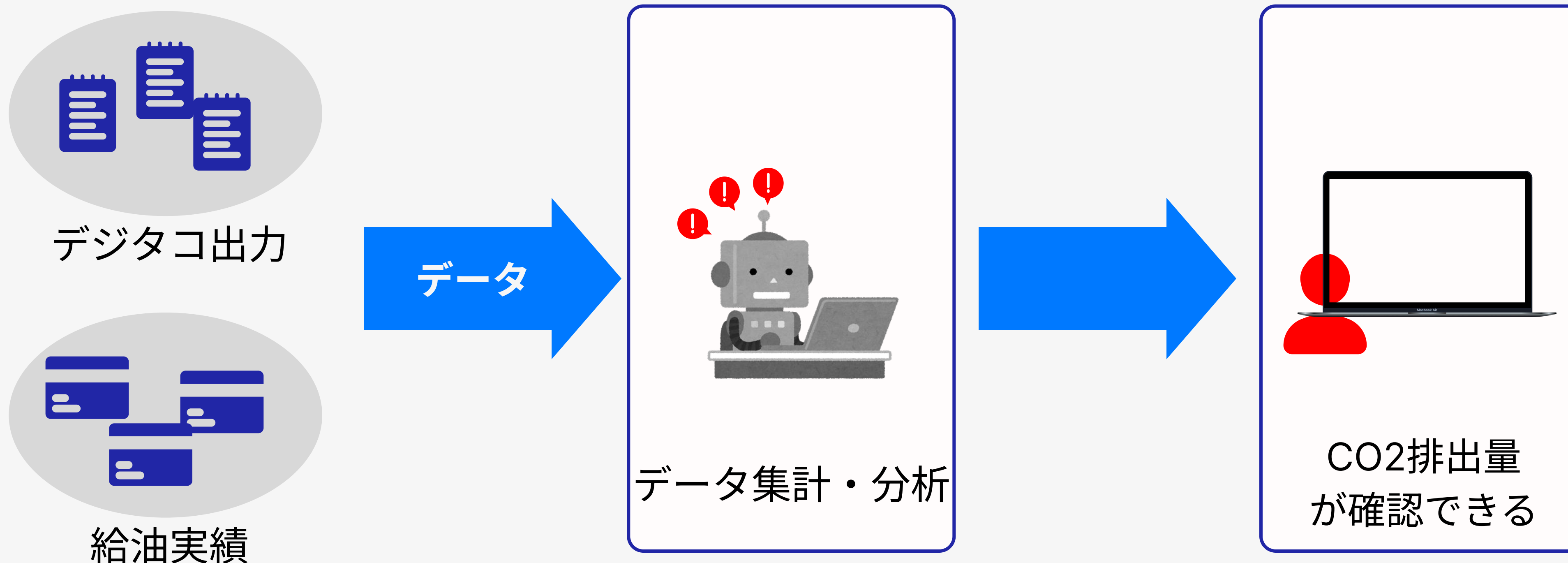
荷物の重さ×発着点の距離 は変わらない



## PRODUCT

# 「エミトラ」 ～サプライチェーン輸送の脱炭素プラットフォーム～

トラックに装着されているデジタコ出力と、給油実績（カード明細等）を集めシステムに取り込むシステムがデータの集計・分析を行い、CO2排出量を可視化



## PRODUCT

# 「エミトラ」 ～サプライチェーン輸送の脱炭素プラットフォーム～

計算手法はISO14083に準拠。荷主、お届け先、輸送単位ごとのCO2排出量を可視化  
足りないデータは実態に合わせて補完するが、ロガー（別売）を装着して計測することも可能。



## PRODUCT

# 導入メリット

- ✔ CO2排出量算出にかかる時間をゼロにできる
- ✔ 物流効率化による削減効果が可視化される
- ✔ メーカー・車種を問わず同一システムで利用可







---

**Mobirta**

---